



## 湾岸・アラビア半島地域ニュース

### サウジアラビア：雇用関係・失業に関する報道

(3月6日付ワタン紙)

2007年下半期における失業率（経済企画省のデータ引用）については下記の通り。  
なお、括弧内は同年上半期比である。

<b>国内の総労働者数</b>	<b>822 万人</b>	<b>( 1 万人)</b>
うちサウジ人	405 万人	( 2 万人)
うち男性	336 万人	( 増減なし)
<b>国内の就業者数</b>	<b>774 万人</b>	<b>( 3 万人)</b>
うちサウジ人	360 万人	( 2 万人)
うち男性	309 万人	( 1 万人)
<b>国内の失業者数</b>	<b>48 万人</b>	<b>( 2 万人)</b>
うちサウジ人	45 万人	( 2 万人)
うち男性	27 万人	( 1 万人)
<b>国内の失業率</b>	<b>5.8%</b>	<b>( 0.2%)</b>
うちサウジ人	11.2%	( 0.2%)
うち男性	8.0%	( 0.3%)
うち女性	26.6%	( 1.9%)

上記数字の特徴として主に下記の2点が挙げられる。

1. サウジ人男性の就職が進み失業率が微減(0.3%減少)する一方で、サウジ人女性の失業が進み(失業率1.9%増)、サウジ人失業率・国内失業率とともに0.2%増となっている。
2. 国内15歳以上人口の50%が労働力としてカウントされており、労働力の3分の2が20歳から39歳の男女が占めている。男性は20歳から24歳(主として高卒)、女性は25歳から29歳(主として大卒)の年齢層の失業者が多い。

また、上記の数字を見る限りでは、この半期で労働力のサウジ人化はほとんど進んでおらず、引き続き若年層の失業問題回章が課題となっていると言える。